

信州の「住まい方」コンクール ～令和元年度“信州の木”建築賞～ テーマ：信州らしい「住宅」・「住まい方」

【事例部門】

最優秀賞（県知事賞）

晴耕雨読な暮らしの住まい

所在地：安曇野市
構造：木造2階建
延べ面積：118.44㎡
応募者：藤松 幹雄

【作品コンセプト】

子供たちが社会人となった御夫婦が住まう。敷地は駅より徒歩10分程で総合病院やスーパーなど程近い。自立して日常生活を送るには便利な地域。環境条件など敷地特性を探りながら家族の集まる居間を中心に据えた。光庭を設けシンボルツリーを囲むよう居住スペースを配置し、家に居ながらも信州の心地良い風や降り注ぐ光が感じられる住まいとした。

高さをおさえた深い軒と土壁風塗壁



光庭やウッドデッキからの
柔らかい自然光に包まれる
リビング



ダイニング

<建物仕様（抜粋）>

- ・ U_A 値 = $0.44 \text{ w/m}^2 \text{ k}$
- ・ 構造材はほぼ県産材を使用
（土台：桧、柱：杉 など）
- ・ 肌に触れる仕上げ材は県産材を使用（床：唐松フローリング）



- ・ 玄関ホールから見る光庭
- ・ ヒメシヤラが出迎える
- ・ 光庭（中庭）を囲むように居室を配置し、四季の移り移り変わりを楽しむ



バリアフリーを考慮した広めの洗面脱衣室

<作品概要（抜粋）>

- ・ 子供達が休暇などで気軽に帰省できる受け皿としてロフト的な部屋を2階に設けた。
- ・ 半屋外のウッドデッキや庭が、ご近所との交流の場となっている。
- ・ 前庭の一角に作った畑から収穫した野菜が夕食にならぶのも四季折々の楽しみ。
- ・ 外壁は塗壁に梓川の川砂を入れ土壁に近い表現とし、安曇野に馴染むように心がけた計画。

<信州での「住まい方」 設計者の思い>

日本人の平均寿命が延び、「退職後の暮らし」に十分な時間が出来た。自立しながらも元気よく過すのが21世紀の住宅建築のテーマではないか。

社会と係わりながらも、のんびり暮らす自由時間。子供や孫が時おり訪れる、抛り所となる賑わいのある住空間。休耕田を借りるシステムの整備など・・・。

長野県は学ぶ場も多く「晴耕雨読な暮らし」の環境がそこにある。

【事例部門】

優秀賞（長野県建築士会会長賞）

安曇野の平屋の家

所在地：安曇野市
構造：木造平屋建
延べ面積：238.44㎡
応募者：尾日向 辰文

【作品のコンセプト】

安曇野のこの地を選び移住した50代夫婦の平屋の住まいです。安曇野のシンボルの常念岳に向かう軸線に沿って、奥に向かうに従いプラバシーのレベルがあがる順に生活のスペースを配置し、ワンルームのように一体に構成しました。また、二方向の接道を生かし、通り抜けできるクルマの動線を設定し、途中で駐車スペースを配置しました。そこに一枚の大きな片流れの屋根を架け、おおらかで伸びやかな外観をつくりました。



東側外観

・北アルプスを控えた里山の裾野の安曇野の田園風景の中に、違和感なく馴染む、据わりのいい佇まいを創出

西側外観





<建物仕様（抜粋）>

- ・1.4mの軒の出
- ・サンルームによる緩衝空間
- ・ダイレクトゲイン
- ・薪ストーブで全館暖房
- ・県産材は構造材や仕上げ材に根羽杉を使用

リビングから見たダイニング

松本市街地まで望めるサンルーム

リビングから見たワークスペース



<作品概要（抜粋）>

- ・ゆとりと開放感のある住まい
- ・車椅子での生活も考え、道路から室内まで段差のない計画とした。（室内床面まで1.8mある高低差を、引きのあるスロープで吸収）
- ・南側に大きなガラス窓のサンルームを配置し、内と外を穏やかに繋ぐ、空間の緩衝帯とした。

<信州での「住まい方」 設計者の思い>

リタイア後の人生を、薪割りをしたり、趣味の手仕事を楽しんだり、安曇野の自然を身近に感じながらの暮らし。周囲に開けた地形を活かし、塀やフェンスなどの囲いを作らず、敷地と周辺環境をおおらかに繋げ、穏やかに地域社会と繋がる住まい。肌で感じる地域材の豊かな素材感、心地良いスケール感など……。

【事例部門】

優秀賞（長野県建築士事務所協会会長賞）

真田の家

所在地：上田市
構造：木造2階建
延べ面積：180.95㎡
応募者：news設計室 丸山 和男

【作品のコンセプト】

40年の長い海外生活を終えて、実家のある信州にUターン。自然豊かな里山の環境の中で、庭を楽しむ、生活を楽しむ為の終の棲家。計画は庭のあり方と周辺環境との繋がり方を検討することから始まった。敷地は実家の隣で、実家との繋がりも大切にしたい。住まいと庭、庭と周辺環境が繋がる事で人と人が繋がり、住まい手も住まいも地域に溶け込むように考えた。



隣接する実家の庭から続く小道と雑木林をイメージした庭



庭を切り取る上部窓と通風のための下部窓



<建物仕様（抜粋）>

- ・屋根の集熱パネルで集熱し、熱交換をして、給湯・床下暖房に利用
大雪の際は、融雪装置として 機能
- ・構造材は、梁桁を除き、県産材の桧を使用

- ・デッキを通じて緩やかに繋がる庭と住まい
- ・四季を通じて変化する庭は、道いく人とのコミュニケーションを豊かにし、縁側のようなリビングデッキは語らいの場として活用。

居間の延長でのような
リビングデッキ



明確にプライベート
空間と分けたゲスト
ルーム（2F）

<作品概要（抜粋）>

- ・実家のある信州にUターン。敷地は実家の隣で、実家との繋がりも大切にしたい。
- ・住まいと庭、庭と周辺環境が繋がる事で人と人が繋がり、住まい手も住まいも地域に溶け込むように考えた。
- ・プライベート空間は平屋とし、庭を中心とした生活を楽しむ。ゲスト

<信州での「住まい方」 設計者の思い>

長い時間をかけて育まれた日本の木造建築の良さを、現代の技術と融合しながら引き継いでいきたい。身近にある豊かな森林資源を使い、職人の技術を継承していく事が当たり前になるよう家づくりを続け、住まいに対する人々の意識を変えていきたい。

【事例部門】

優秀賞（日本建築家協会 JIA 長野県クラブ代表賞）

ふだん木の暮らし

所在地：伊那市
構造：木造2階建
延べ面積：161.39㎡
応募者：建築設計室ヴェクトル 一級建築士事務所
倉田 政人

【作品のコンセプト】

日々の暮らしの中で木とのかかわりが、地産材・里山との繋がりに直結していると感じています。気張らず・気ままな普段使いの木の暮らしを基に、木を通じて地域とのコミュニティを目指しました。



高さを抑え、緩やかな屋根勾配と大庇とした民家調の外観



開け放ちの続きの間となる2階和室



<建物仕様（抜粋）>

- ・南側大庇で日射取得をコントロール
- ・給湯、暖房の温熱は、100% バイオマス+日射取得を実現
- ・計画断熱性能：
HEAT G1 クラス相当

2階の大開口は、近隣の山並みを風景として取り込む

薪ボイラで創熱、蓄えた熱を給湯・暖房用として利用し、近隣建物へも供給



気持ちが外に向かう主寝室、ラウンジ、ウッドデッキ

<作品概要（抜粋）>

- ・暮らしの中に必然と薪づくり等の木のかかわりが出来、通年作業として継続的なライフスタイルになっている。
- ・薪づくりは、楽しみながら少しずつ蓄えて建物の温熱として利用。隣接建物へ供給・共用し、温熱シェアを実践。
- ・地産材の利用し、伐採・製材・乾燥・加工・建築を全て市内で行い、低マイレージ材利用とした。

<信州での「住まい方」 設計者の思い>

「住まうことはその場所に暮らすこと」、場所性（地勢・気候・景観・地域性等）を捉え、建物だけでなくこの場所での暮らし方を含めた計画を考える。

信州（寒冷地）でのライフスタイルに木（木質バイオマス）のエネルギー活用が有効。普段使いの木を通じコミュニティが生まれ、人との繋がりが地域内循環や産業への懸け橋になると感じる。

【事例部門】

優秀賞（信州建築構造協会会長賞）

古民家再生

所在地：上田市
構造：木造2階建
延べ面積：323.07㎡
応募者：株式会社林工務店

【作品のコンセプト】

先祖代々大切にしてきた住宅を、耐震性・省エネ性を向上し、2世帯が楽しく快適な空間になる様よみがえらせたいというお施主様の思いから、古き良い材料は残す民家再生工事の施工方法を採用。



漆喰の白壁、木製つりなど古民家らしい佇まい



3世代が全員でくつろげるリビング

吹き抜けを設け、明るさを確保したリビング



天窓を設置し、北側の明るさを確保



地元赤松の梁を残し、当時を復元した玄関ホール



<作品概要（抜粋）>

- ・36帖ある1階のLDKが、家族全員が集える憩いの場。吹き抜けを設け、2階の世帯とのコミュニケーションを容易にしている。
- ・100年余の歴史的住宅を復元することにより、信州の住宅の良さを感じていただく。
- ・当初の建物の雰囲気となるべく再現するデザイン
- ・住宅全体を北側へ移動（曳家）し、道路から遠ざけプライバシーを確保。

<信州での「住まい方」 設計者の思い>

先祖から受け継がれ信州に適した住宅を、家族の意思を統一し、家族一体となって修復し住み継いでいく住まい方は、今後のあるべき住まいづくりのひとつ。

【事例部門】

優秀賞（長野県木材協同組合連合会理事長賞）

下條村 Yさんの家

所在地：下伊那郡下條村
構造：木造2階建
延べ面積：93.6㎡
応募者：新井建築工房+設計同人NEXT
代表 新井 優

＜建物仕様（抜粋）＞

- ・ U_A 値 = $0.5 \text{ w/m}^2 \text{ k}$
- ・ 暖房は薪ストーブで十分
- ・ 構造材は、すべて地域での杉材
- ・ 床は子供に優しい唐松本実板



スキップ階段と
リビングダイニング

傾斜地を活かし
スキップした住
宅とアウトドア
リビング



作品のコンセプト（施主から）

長男だからいつかは下條村に戻る、ということを決めてはいたものの、いつまでもぼんやりとしていたビジョンがはっきりしたのは3年前の夏でした。

県外に暮らして数年、一歳の娘と帰省していた私たちが見たのは、朝露にきらきら光る田んぼの真ん中の道をのんびりと登校していく小学生の男の子でした。

子どもはどこでも育つとわかっていましたが、自分たちが育った信州で子育てをしたいという気持ちがあっさり定まった光景でした。

敷地は実家と同じ地区の農家の方が「〇〇くんが帰ってくるなら」とすばらしい見晴らしの農地を提供してくださいました。

そしてなにより、年を経て、暮らしていくほどにすてきになっていく小さな巣のような居場所になる家がいい、そんな私たちの思いをかたちにしてくださる建築士さんと出会うことができました。

じっくり話を聞いていただき、ご提案いただいた家は斜面を活かしたスキップフロア。

半階下にある寝室は眠りに降りて行くときに少しひんやりとした巣穴に籠るようでとても落ち着き、半階上にある子ども室は空に向かって登って行く感覚と窓辺のベンチがわくわくします。

冬には本棚に囲まれた天井が少し低い暖炉部屋にみんなが集まり、夏にはアウトリビングとしてご提案いただいたウッドデッキにプールを広げ、子どもたちがはしゃぎます。

思い切り畑仕事や庭仕事をして泥だらけになってもウッドデッキから直行できるお風呂、畑で収穫したたっぷりの野菜をどんどん料理していく心地よい台所。

部屋は心地よく繋がり、どこにいても家族みんなの存在が程よく感じられ、居場所が沢山ある家。

家族が増え、歳を経て、家族の距離やかたちが変わっていくことがこんなに愉しみなのはこの家のこの暮らしがあるからだといま心から思います。



外から飛び込める浴室



正面に窓がある独立型キッチン



薪ストーブ、本棚、ベンチのあるリビング

<作品概要（抜粋）>

- ・眼下に広がる伊那谷のV字渓谷の景観を活かす。
- ・傾斜した敷地の接地感を活かすスキップフロア
- ・各部の高さと接地感を活かしたプラン
- ・全体はコンパクトにして、各室はなるべく広く
- ・メリハリをつけた平面計画、様々な居場所がある工夫
- ・農業（家庭菜園）のある生活
- ・小さな家の為、地域材の見え方を工夫

<信州での「住まい方」 設計者の思い>

年を経て、暮らしていくほどに素敵になっていく小さな巣のような居場所になる住まい。アウトリビングや、薪ストーブの周りにベンチと本棚がある濃密な家族の団らんが出来る入り込み暖炉。窓際ベンチが楽しい子供室、畑仕事の後に外から飛び込める浴室・・・Uターンした故郷の素晴らしい見晴らしの傾斜地に建ち、大らかな時の流れの中で家族の時間と地域の繋がりを紡いでいく住まい。

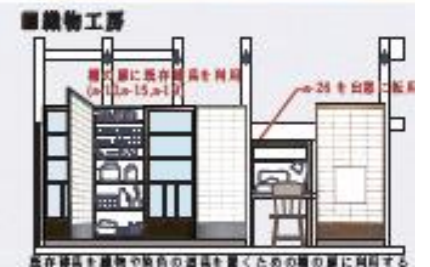
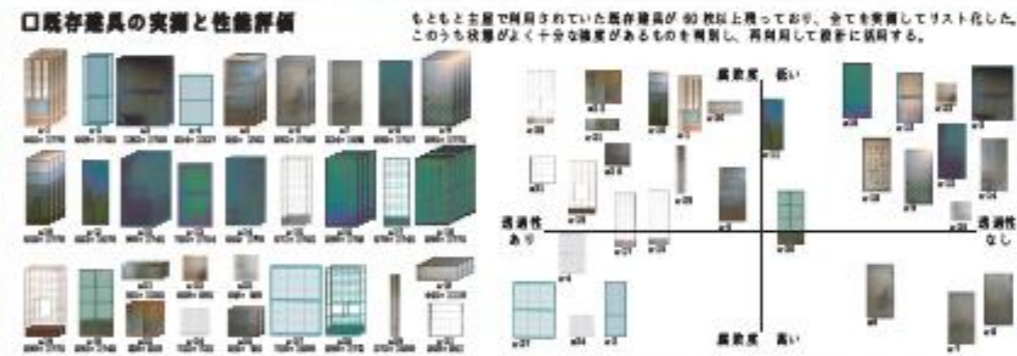
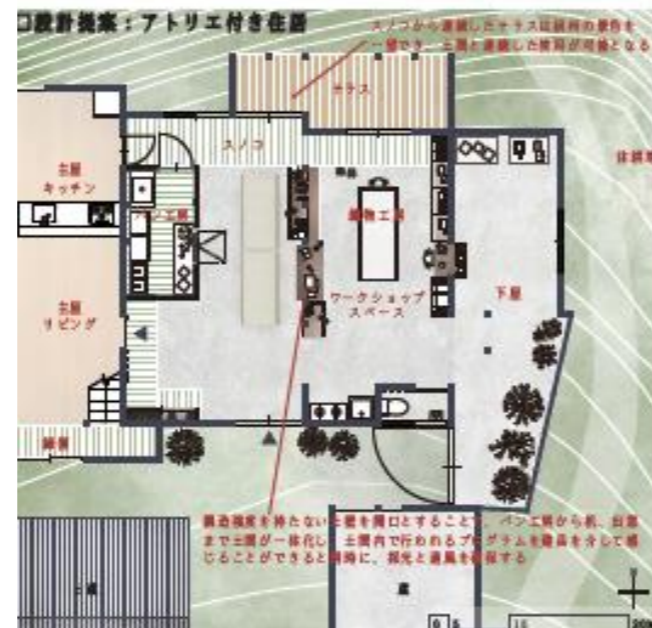
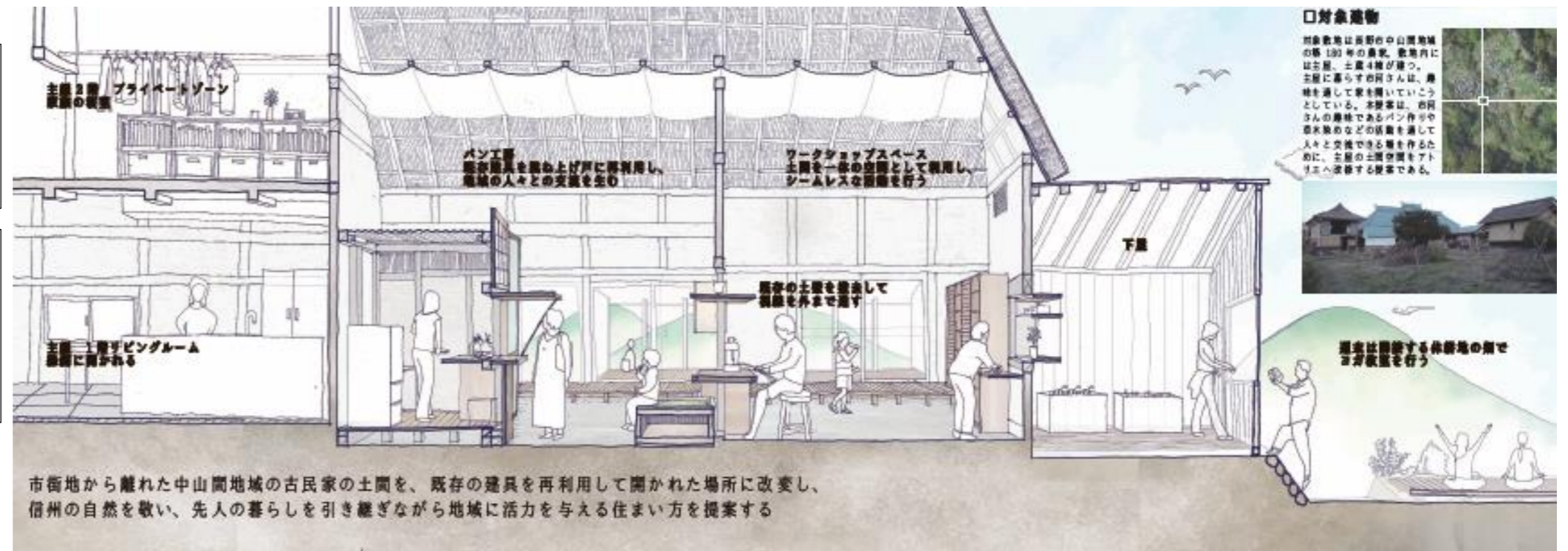
信州の「住まい方」コンクール ～令和元年度“信州の木”建築賞～

テーマ：信州らしい「住宅」・「住まい方」

【提案部門】 優秀賞（信州の多様な住まい方専門委員会会長賞）

タイトル：繋がる土間、継がれる記憶
 -既存建具の再利用によって開かれる住まい-
 応募者：信州大学 寺内研究室
 (寺内 美紀子、堀田 翔平、奥村 拓実、
 安田 隆広、秋山 由季、水木 直人)

【作品のコンセプト】
 市街地から離れた中山間地域の古民家の土間を、既存の建具を再利用して、開かれた場所に改変する。信州らしい、信州の自然を敬い、先人の暮らしを引き継ぎながら地域に活力を与える住まい方を提案する。



<「住まい方」の提案>
 信州には空き家や古民家が多い。提案では、中山間地に建つ築役 180 年の古民家を改修し、民泊やアトリエのようなセミパブリックな空間を設けることで、地域に開かれていくことを目指す。プライベート空間を確保しつつ、土間や蔵、屋外をパン作りや草木染めといった趣味のスペースや、ワークショップなどの開かれた場所に。店舗併用型住宅よりも緩やかで、「人」と「地域」を優しくつなげる場づくりを提案。